

第 2 回岩国医療センター跡地のまちづくりに係る意見交換会 意見要旨

■日時 平成 29 年 12 月 21 日（木）

■場所 灘供用会館

■議事項目

1. まちづくりの将来像
2. まちづくりの将来像を支える基本理念
3. 基本理念の実現を目指すための活動イメージ
4. 施設構成の検討
5. 施設配置の基本方針
6. 施設配置案
7. 整備スケジュール（案）

■主な意見要旨

◆自治会長 質問 1

- ・ 整備スケジュールについて、平成 37 年度頃、今から約 10 年後の完成を目指すとの説明があったが、もう少し短縮できないのか。

◎事務局 回答

- ・ 全体の整備完了は概ね平成 37 年度を目標にしているが、完成した箇所から早期に利用していくことも想定されると考えている。

◆自治会長 質問 2

- ・ アクセス道路について、J R の踏切が狭いことや、大潮や台風の際に、国道 188 号に海水が上がり、道路が寸断されることを不安に思っている。岩国南バイパス延伸との接続も含めて、アクセス道路について検討してほしい。

◎事務局 回答

- ・ 新しく整備される施設は、集客施設になることを想定しているため、アクセスの安全性は重要と考えている。まちづくりの計画と平行し、岩国南バイパス延伸の状況も把握しながら、アクセス道路についてしっかりと検討していきたい。

◆自治会長 質問 3

- ・ 今後、人口減少や税収の減少も想定されるため、施設完成後の維持管理費の負担が大変にならないよう、慎重に検討して欲しい。

◎事務局 回答

- ・ 本市では「公共施設等総合管理計画」を策定し、施設の統廃合の検討や、将来の社会構造の変化を見据えた市民サービスの実現を目指しており、計画地における施設の検討にあたっては、維持管理費の負担や財源等を踏まえ、10 年、20 年後の将来を見据えて市民に必要な施設を整備したいと考えている。

◆自治会長 質問 4

- ・ J R 藤生駅周辺には病院がないが、計画地には整備されないのか。

◎事務局 回答

- ・ 医療施設の誘致については現在も地域医療の担当課で取り組んでいるが、市域全体において新たに開業される医療施設が少ないのが現状である。また、現段階では医療機関が事業展開をする際のイメージも湧きにくいと思われるため、まずは造成の実施など環境の整備から取り組みたいと考えている。

◆自治会長 質問5

- ・ 障害を持った子どもを抱える親の高齢化等が懸念されており、障害者（児）の方が安心して生活できる居住系の施設を整備できないのか。

◎事務局 回答

- ・ 計画地での土地利用の検討においては、土砂災害警戒区域に指定されていることも課題のひとつとなっている。そうした課題を踏まえ、関係部署等とも協議を重ねた結果、現段階においては通所系の施設を中心に導入機能の検討を行っている。障害者分野における福祉行政の課題として受け止め、担当部署に報告させていただきたい。

◆自治会長 質問6

- ・ まちづくりの将来像を支える基本理念に、「ボランティア人材の育成」という方針があるが、自助・共助・公助という言葉もあり、それには若い頃からの意識改革が重要だと思う。ボランティア人材の確保に向けて、現段階で決まっている具体的な取組について教えて欲しい。

◎事務局 回答

- ・ 現段階で具体的な事業名や取組等の詳細は決定していないが、まちづくりを展開するなかで、ボランティア講座の開催等により、若い世代を中心とした人材の育成・確保に取り組める場として検討を進めることとしており、今後、関係部署と事業展開に向けた調整を図っていきたい。

◆自治会長 質問7

- ・ 黒磯地区の避難場所として灘供用会館が指定されているが、老朽化や海が近いことから避難所として課題があると思われる。しかし、計画地も土砂災害警戒区域ということであれば、施設を整備しても避難場所として想定は困難なのか。

◎事務局 回答

- ・ 災害にも色々な種類があり、高潮や津波等を想定する場合は、計画地のような高い場所に避難所を設置することも想定される。広い観点から避難場所の想定を検討していく必要があると考えている。

以上